

平成十六（二〇〇四）年度

建仁寺護国院の建築及び障壁画の調査研究報告

永井規男
山岡泰造
中谷伸生
長谷洋一
建仁寺護国院調査研究班

建仁寺護国院開山堂の調査研究について

妙心寺の建築及び障壁画の調査研究は、平成七年から平成十六年にかけて、関西大学工学部の永井規男（建築史）、関西大学名誉教授の山岡泰造（美術史）、文学部の中谷伸生（美術史）、同じく文学部の長谷洋一（美術史）及び妙心寺調査研究班の大学院生らによって行ってきた。

平成十五年・十六年にはその一環として、建仁寺護国院開山堂の調査が進められ、調査の一部が本紀要で紹介されたが、今回は残りの資料の紹介となる。この護国院開山堂の建築及び障壁画は、これまで部分的に紹介がなされたことがあるが、その大半は未紹介のものである。とりわけ、遺存する作例の少ない加藤文麗の障壁画は貴重な絵画であり、昨年引き続き、紹介を行うものである。平成十五年以来、再三の調査をお許し頂いた建仁寺当局に深く感謝を申し上げる。

△論文・資料紹介▽

建仁寺の古建築 その奇構

建仁寺護国院開山堂の障壁画（下）

△資料▽

護国院開山堂平面図・障壁画記号・寸法・図版

永井規男

中谷伸生